2019展望　第４次長期プランスタート

建コン　建設工業新聞　2019.1.17（2）

2019 展望

建設コンサル

福山コンサルタント
福島　宏治社長

第4次長期プランスタート

18年6月期は3期ぶりの減収だったが、当期純利益は3期連続で過去最高を更新した。働き方改革を経営の第一目標とし、時間当たりの生産性向上に注力したのが要因だ。九州と東京の二核化が奏功し受注高は東日本エリアが西日本を超えた。SVI研究所の設立、エコプラン研究所との資本・業務提携、ブログウォッチャーとの業務連携など昨年は挑戦の1年だった。

今年は3月に創業70周年を迎え、今春には7月にスタートする第4次長期プランを公表する。公共投資の予算規模は前年並みと予想し、19年6月期の目標も前期並みに設定し現時点ですべての指標が前期を超えている。利益は4期連続で過去最高を見込む。

M&A（企業合併・買収）は複数案件を検討中だ。主力分野の道路、交通、鉄道は首都圏以外の拠点展開エリアでトップを目指す。ビッグデータなどを活用したサービス分野を拡大し、鉄道とインフラ老朽化にはモニタリング技術を融合して差別化を図る。

指定管理者や官民連携の支援などに注力するため、金融機関や海外勤務の経験者らを中途採用している。今後はMBA（経営学修士）取得プログラムに社員を継続的に派遣する。社員の個の力を高め、組織を強靱（きょうじん）化したい。働き方改革では労働時間の縮減を継続し、それに必要な社外との提携や協力会社とのネットワークを強化する。省力化システムへの投資や定年制の延長も検討する。